

宮川総合水系環境整備事業
(再評価)
報告資料

令和元年12月13日

国土交通省 中部地方整備局
三重河川国道事務所

目 次

1. 事業概要	1
(1) 事業の目的及び概要	
(2) 今回の評価	2
(3) 昼田地区水辺整備	3
2. 評価の視点	
(1) 事業の進捗状況	4
(2) 費用対効果分析	6
(3) 事業の進捗の見込みの視点	7
(4) コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点	7
3. 県への意見聴取結果	7
4. 対応方針（案）	7
5. 令和元年度 第22回 三重河川流域委員会における審議	8

1. 事業概要

(1) 事業の目的及び概要

【事業の目的】

- 宮川、勢田川に残されている自然環境や歴史文化資源を活用し、利用しやすい河川空間を整備することにより、伊勢神宮をはじめとした周辺施設との連携を図り、地域の魅力の向上と活力ある都市空間の形成に寄与することを目的としています。

【事業の概要】

- 事業区間：宮川（三重県）
- 事業期間：平成19年度～令和3年度予定
- 全体事業費：約14.8億円
前回評価時 約14.6億円
- 整備内容：水辺整備事業（2箇所）
宮川勢田川水辺整備【完了】
昼田地区水辺整備【整備中】

対象事業の実施箇所



1. 事業概要

(2) 今回の評価について

年度	事業評価	宮川総合水系環境整備事業		
		宮川勢田川水辺整備	昼田地区水辺整備	
H19		整備期間		
H20				
H21				
H22	再評価(継続)			
H23				
H24	再評価(継続)			
H25				
H26				
H27	再評価(継続)	完了箇所評価	設計・工事	
H28				
H29				
H30			延伸	
R1	再評価	今回評価(再評価)		
R2			モニタリング (環境調査含む)	
R3				
R4			完了箇所評価	

モニタリングの内容

- ・ 魚類等生息状況調査
- ・ 景観調査
- ・ 土砂堆積調査
- ・ 河川空間利用調査

1. 事業概要

(3) 昼田地区水辺整備

整備の必要性

<背景>

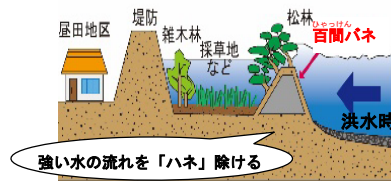
- 宮川は、我が国屈指の清流河川であり、当該地区は河川空間管理計画で自然利用ゾーンとして位置付けられており、「人と河川の豊かなふれあいの場」としての利用が求められています。
- 周辺には、宮川堤公園などの親水施設や、「百間バネ」と呼ばれる歴史的治水施設があり、多様な河川空間によりニーズに合わせた利用の拡大が考えられます。
- 玉城町は、河川空間を利用して子どもたちが安全に自然体験や環境学習ができる場の整備を要望し、平成26年3月に国土交通省「水辺の楽校プロジェクト」に登録されました。

<課題>

- 水辺整備の予定箇所は、洪水を安全に流下させるための治水機能が不十分です。また、高水敷には樹木が繁茂し、安全に水辺にアクセス可能なアプローチがないなど、効果的な利活用が妨げられています。

<対策>

- 高水敷の安全な利活用を確保するため、国において、高水敷整備、親水護岸、せせらぎ水路など基盤となる整備を実施しました。また、玉城町において、芝生広場、駐車場などを整備しました。



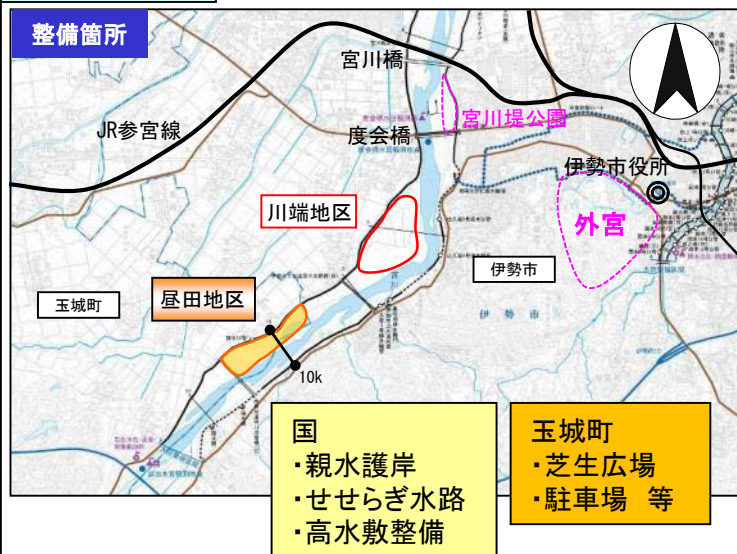
昭和50年代の百間バネ(イメージ)



川端地区の河川敷広場の利用

整備内容

整備箇所



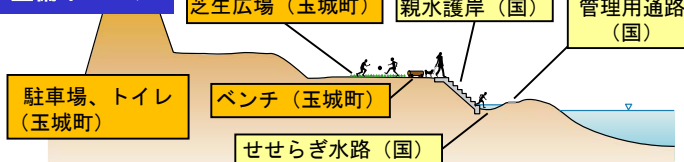
整備前

整備後



高水敷や親水護岸、せせらぎ水路等を整備します。

整備イメージ

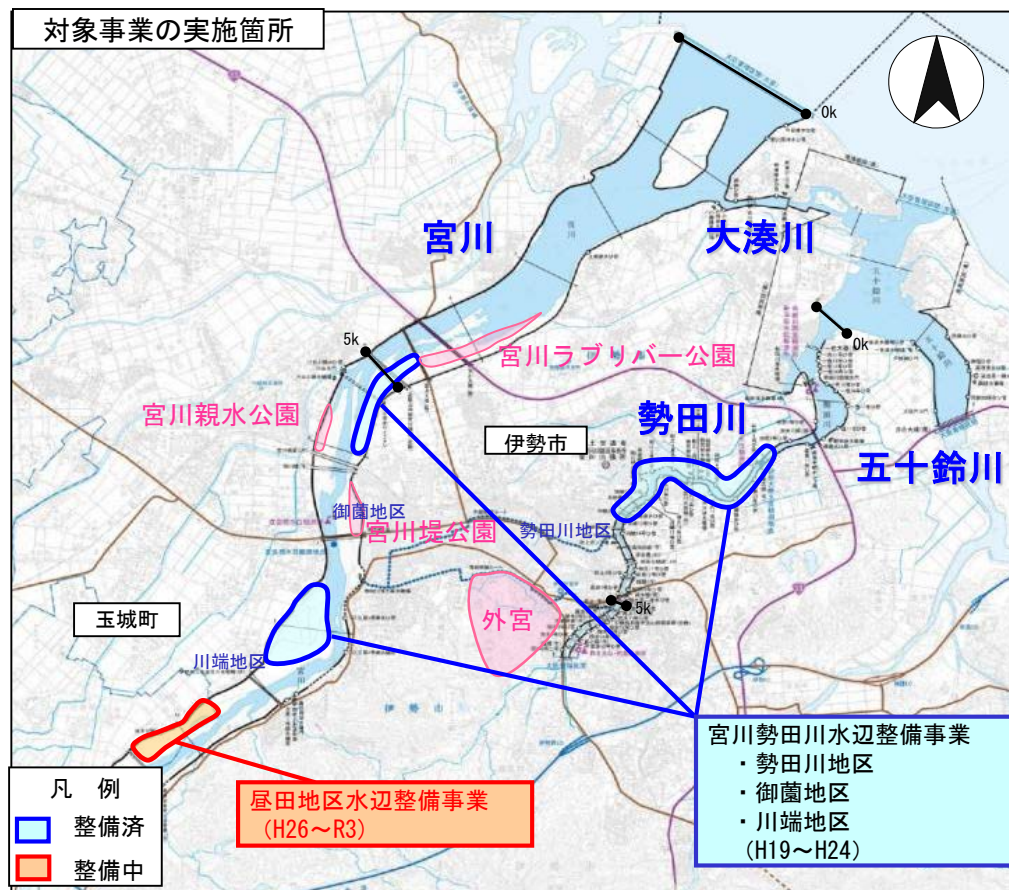


スポーツやレクリエーションの場として利用できる広い高水敷や、水辺に近づくような親水護岸・せせらぎ水路を整備します。

2. 評価の視点

(1) 事業の進捗状況

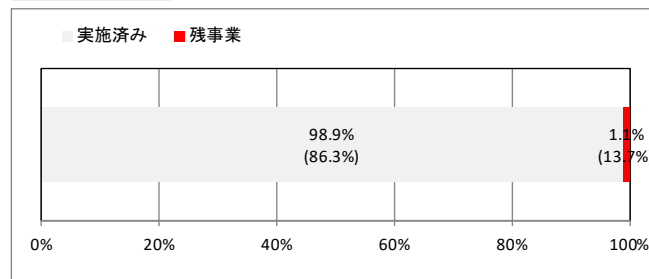
・事業全体の進捗率は、令和元年度末事業費ベースで約99%です。



全体事業費：14.8億円
 実施済み：14.6億円
 残事業費：0.2億円
 (税込)

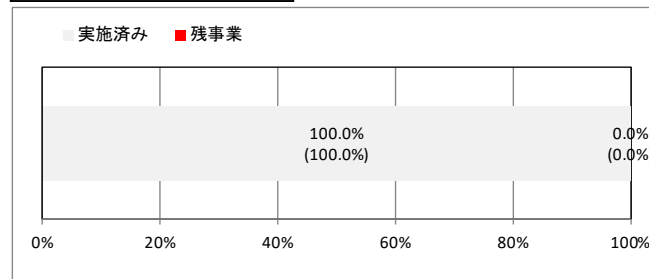
事業全体

() : 前回評価時の進捗率



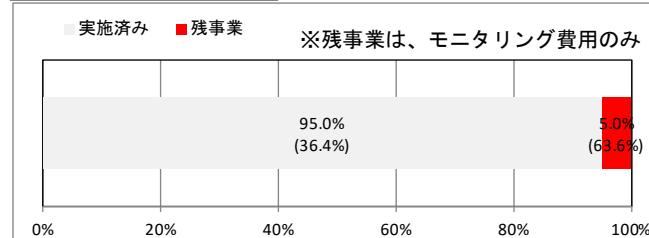
宮川勢田川水辺整備

() : 前回評価時の進捗率



屋田地区水辺整備

() : 前回評価時の進捗率



■前回事業費：3.13億円 → 今回事業費：3.33億円 (0.2億円増)

【前回】自治体整備内容
 芝生広場、駐車場 (砂利舗装)

【今回】
 芝生広場、駐車場 (アスファルト舗装)
 トイレ、ベンチ

2. 評価の視点

(1) 事業の進捗状況

事業の投資効果

- ・安全に川に近づけるようになることから、宮川の自然環境にふれることができる場となり、自然を活かした環境教育や自然観察の場としての利用の拡大が期待されます。
- ・宮川の高水敷を安全・快適に利用できるようになり、スポーツやレクリエーション、地域住民の憩いの場となることが期待されます。
- ・せせらぎ水路では、メダカやドジョウ等が確認されており、子供たちが水辺や水生生物等に親しむ場として活用されることが期待されます。

環境学習の場としての利用



水生生物調査の実施
(R元. 6. 12 : 玉城町立下外城田小学校)

たまき水辺の楽校 位置図



出典: 国土地理院地図

せせらぎ水路で確認された魚類



ミナミメダカ
(環境省VU、三重県NT)



ドジョウ (環境省NT)
VU: 絶滅危惧Ⅱ類、NT: 準絶滅危惧

高水敷等の利用 (イメージ)



高水敷でのレクリエーション
(他河川の事例)



せせらぎ水路の散策
(他河川の事例)

2. 評価の視点

(2) 費用対効果分析

事業全体に要する総費用(C)は24.5億円、総便益(B)は58.0億円、費用対便益比(B/C)は2.4となります。

事項		宮川総合水系環境整備事業			備考
地区名	(水系全体)	水辺整備			
		屋田地区水辺整備 再評価	宮川勢田川水辺整備※7 H27完了箇所評価済み		
計算条件	評価時点	令和元年度			
	整備期間	平成19年～令和3年	平成26年～令和3年	平成19年～平成24年	
	評価対象期間	整備期間+50年間			
	受益範囲	事業箇所周辺5km	事業箇所周辺5km 世帯数：34,763世帯	事業箇所周辺5km 世帯数：57,783世帯	
	年便益算定手法	CVM（郵送アンケート）	CVM（郵送アンケート） 回収数：471票 有効回答数：303票	CVM（郵送アンケート） 回収数：343票 有効回答数：226票	
	支払意思額（WTP）	—	226円/世帯/月	255円/世帯/月	
B/Cの算出	総便益（B）	58.0億円	21.5億円	54.9億円	※1、※2
	年便益	1.9億円/年	0.94億円/年	1.8億円/年	※3
	便益	57.5億円	21.5億円	54.4億円	※2
	残存価値	0.58億円	0.03億円	0.55億円	※2
	総費用（C）	24.5億円	4.8億円	19.8億円	※1、※2
	事業費	21.3億円	3.6億円	17.7億円	※2
	維持管理費	3.3億円	1.2億円	2.1億円	※2、※4
B/C	2.4 (2.5)	4.5 (4.2)	2.8 (3.0)	※5、※6	

※1: 四捨五入の関係で、合計が一致しない場合がある。 ※2: 割引率4%で現在価値化 ※3: WTP×世帯数×12ヶ月 ※4: 必要額の積上げ
 ※5: 総便益(便益+残存価値)／総費用(事業費+維持管理費) ※6: ()内は前回評価時の数値
 ※7: 完了箇所評価済みの事業については、B/C(水系)算出に必要なため、評価基準年及びデフレーターを更新して再算出している。
 ※事業全体の総便益(B)の算出にあたっては、受益範囲が重複している範囲について考慮しているため、箇所別の総便益の合計とは一致しない。

2. 評価の視点

(3) 事業の進捗の見込みの視点

- ・ 昼田地区では、整備後の環境や利用についてのモニタリング調査において、水辺の自然を観察する場としての利用が既に確認されており、今後のさらなる活用が期待されます。
- ・ 令和元年度以降は、せせらぎ水路に生息する魚類等について、継続してモニタリング調査を行います。以上のことから、事業実施にあたっての支障はありません。

(4) コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

- ・ 残土処理地を変更し、運搬距離を短縮したことによりコスト縮減を図りました。

3. 県への意見聴取結果

(三重県)

- ・ 本事業は、宮川の自然を生かした環境教育や自然観察の場および地域住民の憩いの場を創出するための重要な事業です。今後も引き続き、本県と十分調整をしていただき、河川の利用状況及び魚類生息状況等のモニタリング結果の情報共有をお願いします。

4. 対応方針（案）

- ・ 地域住民の河川利用に関する需要が見込まれる事業の必要性は高くなっています。
- ・ 今後、効果の発現が見込めることから、宮川総合水系環境整備事業を継続します。

5. 令和元年度 第22回 三重河川流域委員会における審議

「令和元年度 第22回 三重河川流域委員会」において、宮川総合水系環境整備事業の再評価の対応方針（原案）について、審議をいただきました。

【開催概要】

開催日： 令和元年10月2日（水）

会場： 三重県 津市

プラザ洞津 2階末広の間

【主な議事】

事業再評価 宮川総合水系環境整備事業



主なご意見

○宮川総合水系環境整備事業の継続について了承する。